



宮崎南週報



出逢う人と 奉仕を共に

宮崎南ロータリークラブ

会長 野田 一孝

第1884回例会

2016.8.1

会長／野田 一孝 幹事／井上 竜志
 副会長／日高 章智 会報／戸高 勝利
 例会場／宮崎観光ホテル
 ソング／四つのテスト
 ロータリーの目的

会長挨拶

野田一孝会長



本日は、2730地区 ガバナー公式訪問です。大重ガバナーまた、藤堂ガバナー補佐の方々におかれましては、お暑い中、ご訪問頂き、有難うございます。会員一同、心より歓迎いたします。

南ロータリークラブは、会員数40名と会員を増強していかなければならぬクラブですが、会員同士の関係は、結束が強く、色々な行事を共に行動を起こしております。他クラブにはない、ロータリーを楽しむ雰囲気を持っている、南ロータリークラブです。

大重ガバナーも仰っておられ、また当南ロータリークラブ、大迫パストガバナーも提唱しておられますように先ずは、職業奉仕がなければロータリーは、発展しないと考えておられます。これを進めて行くには、会員相互の理解と会員拡大増強を第一として取り組んでいきたいと思っております。

ロータリーフラッシュ

誕生日

安川 潔会員、開地俊昭会員、川野一義会員、高山周栄会員



ロータリー情報

ガバナー公式訪問 (Governors Official Visit)

ガバナーあるいはガバナー補佐は、公式訪問の際にクラブ目標への進展状況を確認すべきである。訪問は、ガバナー出席の効果が最も高まるよう、加盟認証状伝達式、入会式、新会員オリエンテーション・プログラム、表彰式、特別プログラム、ロータリー財団行事、都市連合会合などの行事とあわせて行うべきである。

出席委員会報告

松田安典委員長

●出席状況

本日状況	
会員数	(39) 41名
本日欠席者数	7名
本日出席者数	34名
出席率	87.18%

前々回状況	
会員数	(38) 40名
ホームクラブ出席者数	34名
メークアップ数	0名
修正出席者数	34名
修正出席率	89.47%

●前々回メークアップされた方／

ニコニコ BOX	0件 累計 18,000円	0円 累計 5,890円 募金箱	15,090円
----------	---------------------	---------------------------	---------

本日は、行き届かない点があると思いますが、皆様の寛大な心で見て頂ければと思っております。短い間ではございますが、ごゆっくりとお過ごし下さい。本日は、宜しくお願ひ致します。

報 告

幹事報告

井上竜志幹事



- 2016年規定審議会報告会が開催されます。8/21日曜日 10:30~12:30 宮崎観光ホテルにて開催されます。
参加を希望される方は事務局までお知らせください。
- 8月のロータリーレートは1ドル=102円となっております。



ロータリー情報

ガバナー公式訪問 (Governors Official Visit)

ガバナーあるいはガバナー補佐は、公式訪問の際にクラブ目標への進展状況を確認すべきである。訪問は、ガバナー出席の効果が最も高まるよう、加盟認証状伝達式、入会式、新会員オリエンテーション・プログラム、表彰式、特別プログラム、ロータリー財団行事、都市連合会合などの行事とあわせて行うべきである。

本日のプログラム ガバナー公式訪問

ガバナーアドレス

大重勝弘ガバナー



みなさん、こんにちは。

今年度当地区のガバナーを仰せつかりました、指宿ロータリークラブの大重勝弘と申します。生年月日は昭和15年9月18日、75歳と10か月を過ぎました。

職業分類は内科の病院の医師をしておりますが、65歳で病院は辞めました。

辞めたいきさつについてお話をしますと、高校の還暦の同窓会の時に、同級生の一人が「第三の人生」という文章を持ってまいりました。それを見て「これは早く仕事を辞めないといけないな、」と思いましてやっと病院の仕事を辞められたのが65歳です。

ところが、グループの老人保健施設の加勢をしてほしいということで2年半ほど加勢をしました。

病院は患者さんの病気を治すことが主な仕事ですが、この老健施設は利用者の病気は慢性化し固定化しておりますのでQOL (=Quality Of Life)、すなわち生活の質を高めてあげることが主な役目です。ところが高齢者なので、なかなかこれが難しい。

だんだん身体は弱っていき、回復させるのは至難の業です。

若い人たちの体力は回復しますが、高齢者の場合はなかなかそうはまいりません。

朝から晩まで要介護の方と付き合っておりましたと、その方々の悩み、考えがよく分かります。そうした日々の中で感じたことは、自立して人の助けをもらわないで生活できる事は、非常にありがたいな、ということです。

そして、自分が要介護にならないためには、どうすれば良いのか、それを一生懸命真剣に考えておりました。

日本人の寿命は世界一の高齢となっております。

現在は100歳以上の元気なお年寄りがたくさんおられますが、健康管理をしっかりすれば、ほとんどの方が100歳まで生きられます。

ところが、寝たきりで100歳まで生きれば良いといものではありませんので、寝たきりにならないで100歳まで生きる。そのためにはどうすれば良いのかというのを考えました。

そして、自立して100歳まで生きるためのノウハウを作り、その講演をしております。

さて、話は変わりますがポールハリスの言葉をお伝えしたいと思います。

「ロータリーとは何か。何千人のロータリアンに聞けば、何千通りの答えが返ってくる。

ロータリーの考え方は人によって違う。もしロータリーが良い考え方で、より他の人と親しく交わり助けあうようになるなら、そして、人の美しさと喜びを発散し伝えるようにしてくれるなら、それが我々が求めるロータリーの全てである。これ以上ロータリーに何を求める事があろうか。」

このような文章ですが、ここにあるように「何千人の人にロータリーについて聞けば、何千通りの答えが返ってくる。ロータリーの考え方は人によって違う。」

ここが、ロータリーの分かりづらさです。

確かに、ロータリーは巨大化して非常に複雑になっておりますが、この複雑になっている枝葉を取り除いていくと根幹が見えて参ります。

それは何かというと、「親睦とサービス」です。これがロータリーの根幹をなすものです。

今年のRI会長のジョン・F・ジャーム氏は、アメリカ・テネシー州のチャタヌーガRCの会員で、RI会長になる前は、国際ロータリーのポリオプラスの委員長をされておられ、非常にポリオプラスへの思い入れの深い方です。

今年のRIのテーマは「人類に奉仕するロータリー」です。これはポリオの撲滅に全く合致するものです。

現在のポリオの状況は、アフガニスタンに一人、パキスタンに7人の合計8名です。(3月現在)しかし、このポリオには感染していても症状の出ない「不顕性感染」というものがあります。そうした患者さんは感染していない方と全く見分けがつきません。

ですから、このポリオの患者さんがゼロになってから、3年間新たにポリオ患者が発生しなければポリオ撲滅宣言をする事ができます。これは、天然痘の撲滅宣言以来、人類にとって二度目の快挙となります。恐らく、ノーベル賞のトップ候補になるのではないかと感じます。ゴールは、ほんの目の前に迫っています。皆で力を合せて一緒に頑張っていきましょう。

ちなみに、年間にかかるポリオワクチン投与のための経費は35億円です。ワクチンは生まれてくる赤ちゃん全てに投与されます。日本では1981年以来、ポリオの発生はありません。私が小学校、中学校の頃は、(ポリオのせいで)足をひきずりながら杖について歩いている方をよく見かけました。今はそのような方(ポリオ患者)は一人もいません。素晴らしいことです。

地区ガバナーとしての今年の理念といたしましては、「ロータリーを楽しもう」です。

方針の1つ目は「ロータリーを分かりやすく教える」、

2つ目は、「現在の会員が、ロータリーに入っていて良かったな、と実感できるようなロータリーにする」、

3つ目は、「まだ、会員でない方から『ロータリーに入らせてください』と言われるロータリーにしたい」というもので

す。
まず、ロータリーを楽しむには、ロータリーを知らなければなりません。ロータリーを知るためにには、ロータリーを勉強しないと分かりません。ところが、ロータリーのどんな資料を読んでもなかなか分からず。先ほど申しましたように、数千人の会員に聞いても、数千通りの答えが返ってくる。たまたま良い本に出くわせばそれで分かりますが、色んな本を漁っても頭がこんがらがります。5年経っても、10年経っても、20年経っても、これが分かってこない…。

ロータリーは、「親睦と互恵取引(信用取引)」から始まりました。私は、この2つで始まったクラブが(ここまで大きく)世界中に広まるわけはない、どうしてこの2つが世界中に広まったんだろうか。そこをまず考えました。

そうすると、「The ideal of Service (=サービスの理念)」という言葉に行きつけます。

さて、この言葉、以前は「奉仕の理想」と訳されておりました。ところが、ピンとこないということで「奉仕の理念」という風に訳が変わりました。これを「奉仕の心」と訳すとともにわかりやすくなります。

さらにいえば、「サービス」を「奉仕」と訳しているのも分かりにくい。「奉仕」はどちらかというと「ボランティア」のようなイメージになってしまいます。ですから、米山梅吉さんは「奉仕」という言葉を使わず「サービス」という言葉を通して、書物では伝えられております。

しかしながらこの「サービス」という言葉も、現在日本で使われている「サービス」という言葉とは、実はニュアンスが全く異なるものです。ですから、そのあたりのことをしっかりと理解しなければ、ロータリーの本当のサービスの意味は分からないでしょう。ロータリーでいう「サービス」とは、「思いやりの心をもって、相手のために一生懸命尽くす」ということです。

さらに、「職業奉仕」という言葉の意味もなかなか分かりにくいものです。職業で奉仕をするんだな、と文字通りに受け取るのみで終わってしまいがちです。ところが、そうではありません。

「サービスの心を持って自分の職業をしなさい。そうする

と、自分の職業における利益が増し、繁栄、発展しますよ」という意味です。

そして、自分の職業を行うための心構えを大事にすることで、自分の職業が繁栄し発展する、その繁栄・発展した職業を以て地域に貢献する。これが「社会奉仕」になります。

ロータリアン以外の方でも、自分の職業で地域に多く貢献されている方は大勢いらっしゃいます。しかしそれは職業奉仕ではありません。社会奉仕です。

繰り返しになりますが、ロータリーで言う「職業奉仕」は、自分の職業を行うときの心構えとして「サービスの理念をしっかりと持って職業をする、そうすることで必ずその職業は繁栄・発展します」ということです。

ですから、ロータリーに入ってサービスの勉強をする。サービスを習う。ロータリーの例会でサービスの心を養う、そして養われたサービスの心をもって自分の事業を行う、これが本来のロータリーの在り方です。ですから、ロータリーに入ってサービスを学び、ロータリーの例会でサービスの心を育み、その育まれたサービスの心をもって自分の仕事を行う。

ところが、そのサービスについての勉強を例会で行っているというクラブはほとんど皆無です。というのは、「サービス」の意味が伝わっていないからです。そのように思います。

それで、今後はこの「サービス」をしっかりと教えていかなければなりませんが、サービスをしたから、明日からすぐに会社が良くなる、というものではありません。サービスは継続してさらに良いサービスへと磨き続けていき、最も良いサービスをした人が最も多く報われるようにできています。

ですから、どのようなサービスをすれば良いのか、もっと良いサービスをするにはどうすれば良いのか、ここをロータリーの例会で学ばなければなりません。それがロータリーの本当の考え方です。

次に、今年のIM、これは「サービスの実践」を統一テーマとして行って参ります。

枕崎のIMで久保田オートペーツ会長の久保田茂さんの話を聴きました。久保田さんはロータリー歴は浅いものの考え方方が非常に素晴らしい方で、その方の話の骨子を今年のIMの統一テーマにしようと決心しました。久保田さんの会社も見て参りました。なるほどその通り、素晴らしい会社でした。その話を聴いて会社を見れば、なるほど、話にあったサービスを実践されていると感銘を受けられると思います。

このような素晴らしい話をロータリアンだけで聴くのは勿体ないから、JCや商工会議所などには公開して聴いて頂

く、そうすると、ロータリーの認知度、知名度が上がります。「ロータリーはこのような勉強をしているんだ、それならロータリーに入らせてもらおう」という風に展開していくものと期待しております。

さて、我々の地区の6月末の退会者の数が75名、対して6月の入会者が28名です。毎年、年度末になりますと多くの退会者が出ます。これは、とりもなおさずロータリーを分かっていない方々です。ですから、このような方々にロータリーについてしっかり教えていく、ロータリーはこんなに良いんだよ、というのを実感してもらう、そうすると退会者は減ります。

ロータリーの友に、戸田孝さんという方が文章を寄稿されておられました。素晴らしい話でしたので紹介いたします。この方は1926年1月7日のお生まれで、八尾RCの所属、今年で90歳になられます。

(以下、戸田氏の文章を引用)

ロータリー・クラブに入会した当初、誰もがロータリーが何であるか分からぬ。ロータリーの解説書を読んでもなかなか理解できない。先輩は「毎週の例会に出ているうちに分かってくるもんだ」と言うが、何年たっても一向に分からぬ。本人が退会を考えたとき、退会を翻意させる素晴らしい話を聞かせてくれたガバナーの話や、多くの先輩の心に残る感動の事例を記載した。

ロータリーの素晴らしいは、人間が持つ倫理観や、よく生きるために基本理念を学ぶ場もあるが、多くの良き先輩に恵まれる事で、人間の温かさを自分のものにできる場である。

36歳でRCに入会、37、38歳で副幹事。39、40歳で幹事を務めた。幹事をしてロータリークラブの運営や手続きなどは分かったが、肝心のロータリーとは何かが分からぬ。

また自分にとってロータリーがどのように役立つかも分からない。その上、仕事も大変忙しかったので、その年の12月で退会しようと決心していた。

その年の9月にガバナー公式訪問があった。ガバナーは京都大学の総長を務められた平沢興先生であった。クラブ協議会のあと、ガバナーとの会食までの時間、ガバナーと和やかに談笑していた時、ある会員が「ガバナーにちょっとお尋ねいたしますが、世の中で生きる上で1番大切な事は何でしょうか?」と難しい質問をした。

ガバナーは「孔子が最も大切にした言葉に『それ恕か』があります。これは、“己の欲せざるを他に施すことなかれ”、すなわち、あなたが人からしてほしくないことを、人にしてはいけないよ、という教えです。」

ついでガバナーは、「ロータリークラブの例会の中で会員

がお互いに揉み合う心を身に着ける事が大切ですね。揉み合う心とは、感謝、尊敬、謙虚のことで、世の中を生きる上で大切な『徳性』である。ロータリークラブの例会は、恕の心と、揉み合う心を身に着ける最も優れた場なのです。」と教えられた。

平沢ガバナーの話を聴いて、「自分の心がけ次第で、このような人生を生きる上で大切なものを自分のものにできるかもしれない」とロータリーへの認識を新たにし、退会を断念し、今日に至っている。

ロータリーライフを続けていると、いろんなことが見えてくるものである。

「恕」は母親が赤ちゃんを抱っこしながら慈しんでいる有様で、「恕」は相手を許し思いやる心。我が身を思うが如く相手のことを思う心である。

イエス・キリストの黄金律は「汝、他人より与えられんと欲する全てを他に与えよ」

これは、「何事でも人から自分にしてもらいたいと望むことは、すべて人にそのようにしてあげなさい」ということで、キリストの黄金律は愛を表している。

このように、孔子の仁とキリストの愛は、ロータリーの「奉仕の理想」と同じ意味であることが徐々に分かってきた。

「奉仕の理想」とは、このように深い意味を持ち、人間の最高の倫理を表している事を知った。ロータリーの奉仕の理想は「他人に対する思いやりの心で、他人のお役に立たせていただく精神」でロータリアン共通の理念として心の中にしっかりと刻み込むべきであり、奉仕の理想を永年の間に身に着ける事が会員それぞれの意識を高める事に繋がっている。

退会を真剣に考えていた自分をロータリークラブに留ませたのは、平沢ガバナーが教えてくれた「それ恕か」と「揉み合う心」であり、ロータリーの中心に内包する優れた心の部分を分かりやすく教えて頂いたことと深く感謝している。

ロータリーに疑問を抱いている人、クラブ会員である意味が分からず悩んでいる人々には、先人に教えられた心に残る実話を気持ちを込めて伝える事が大切である。

平沢ガバナーのお陰で、毎週の例会を親しいメンバーと笑い、語り、歌い、楽しい日々を送ることができる今の幸せをできるだけ多くの人に伝え、共有したいと思っている。

以上で、ガバナーアドレスとさせて頂きます。